



# 昴の今日と明日Ⅱ

No.60 Apr.11, 2014 (編集・発行)昴☆共生社会研究所

## 理事長就任のご挨拶

この春、勤続30年となった。過ぎ去った時を思えば、まさに光陰矢のごとしだ。

畑違いで何もわからず飛び込んだ世界は、教えられることばかりで随分と子どもたちには迷惑をかけていた。それでも、若さと仕事の面白さも手伝って、不安より希望が勝り、未来は輝いていた・・ように思えた。バブル景気を横見に見ながらも、ひたむきに福祉のかたちを探していたそんな時代だった気がする。

1990年、昴設立。その翌年3月にバブル景気が終わった。ひと言でいうなら、それまでの福祉が余ったお金で作られたお仕着せの恩恵であったから、人として当たり前前の生き方を模索し、「福」も「祉」も幸せという意味であることを地域の暮らしの中で共有して行こうとする時代の始まりと共に昴はスタートしたといえるだろう。

そうした背景があって、昴が、常に時代のはしりに立たされ、先駆けた闘いを強いられてきたのは、当然の運命(さだめ)だったのかもしれない。

振り返ると30年間、楽しませてもらった。決して楽しいだけの仕事ではないが、仕事が好きかと聞かれれば、キライでない・・とは思ふ。立ち止まることはできなかった。たいへんでない仕事はないが、困難だからこそ、やり甲斐ある仕事にもなりやすかった。その困難を「自分のやりたいことを仕事」として自分で創り出してきたものだからからこそ、その歳月が今日まで続いてきたと思う。

その30年目の節目の春に理事長を拝命した。さしずめ好きなことをさせて貰ったことへ恩返しをしなさいということだろう。

自分の若い頃と違って闘いがわかりにくい時代ではあるかもしれない。仕事量だけ出ない、物事の本質の見極めと違和感への繊細さとそれへのレスポンスの良さが求められる難しさにスタッフみんな良く応えてい

ると思う。

どんな昴にしたいか・・・厳しくはあるが、優しい職場でありたい・・・かつて昴がそうであったように。

「タフでなければ生きていけない、優しくなければ生きる資格がない」

窓越しの桜を見ながら、そんな翻訳小説の一文と就任にあたっての思いが重った。

2014年4月11日

高澤 守

先般の理事会で選任された高澤新理事長に抱負の一端を語っていただきました。

他の役員は、前号に掲載したリストの通りです。また、各事業所の幹部職員の体制は次の通りです。

事業所	所長	主任
アドヴァンス	小林	高良
RICE ON RICE		石井
松の実	内山	町田(直)
西部・比企支援センター	丹羽	
デイセンターウイズ	降旗	椿・石平
FSC 昴	内山(兼)	小川(恭)
共同生活ホーム	高澤	五十嵐・赤間
ハロークリニック	小出	
相談支援室	山崎	渡辺
医療事務	横川	
チボリ	町田(尚)	信岡
相談支援センターイースト	浅田	
法人事務局	星野	

次号より、各事業所の今年の計画及び所長の抱負を順次掲載します。

